後藤重巳先生（前別府史談会会長）を偲んで

小嶋智憲

一、竹田高校は共通の学び舎

後藤重巳先生は、大分県立竹田高等学校の先輩（昭和二十八年卒）であり、私は、昭和三十九年卒であるから約一回りも年が違う。先生の住居は桜ヶ丘、私は、中須賀元町であり直線距離一㌔内の近所にある。先生との交流のきっかけは、今から二十三年前の竹田高校同窓会別府支部総会の懇親会であった。先生は、平成六年から別府支部の副部長、支部長を務められ、「竹田」を酒の肴に、別府支部の総会・懇親会を開催していただいた。その後は、参加者の減少とお世話をする役員が少なくなり、平成十五年頃から大分同窓会と合同開催となり、平成二十五年度の別府支部長まで務められた。

二、中須賀元町四十周年記念誌の編纂指導を受ける

中須賀の読み方・呼び方は「なかすか」なのか「なかすが」のいずれだろうか。町内の人々も二通りの呼び方である。市役所に確認したところ、的確な回答はなかった。平成二十三年秋、先生と近所の居酒屋さむらい（別府大学生や先生、地元の人々の寛ぎの場）で、久しぶりの酒飲み会をおこなった。この中で中須賀の話題を始めたところ、アドバイスとして、①「忘れ去られ行く地名～中須賀界隈を歩く―平成四年二月十五日後藤重巳」の資料をあげるので、まずこの地名から勉強すること。②中須賀地域には、昔の文化遺産がたくさんあるため、その解説文を作成すること。③中須賀地区内の別府史談会顧問と理事の方と相談すること。④ある程度纏まったら、地域の先輩者の意見を聞き、生きた史料とすること。等々のご指導をいただき、早速作業に取り組み、約三年を要し、七十二頁にまとまった。

完成は、平成二十六年十月であり、先生には、二十五年秋、近所の寿司屋に出向き、記念誌の内容を見ていただいた。お酒をちょっぴり飲まれ「この本は、中須賀のことをよくまとめている。あともう一歩だね。豊後國速見郡村誌に石垣村の解説があるので参考にしたらどうか」と褒めていただき、大変うれしかったことを思い出します。この時、先生は、「なかすか」だね…ウン…と声を発した。記念誌は二十六年十月に完成し、最初にご自宅へ伺い、先生の御霊前で報告させていただきました。